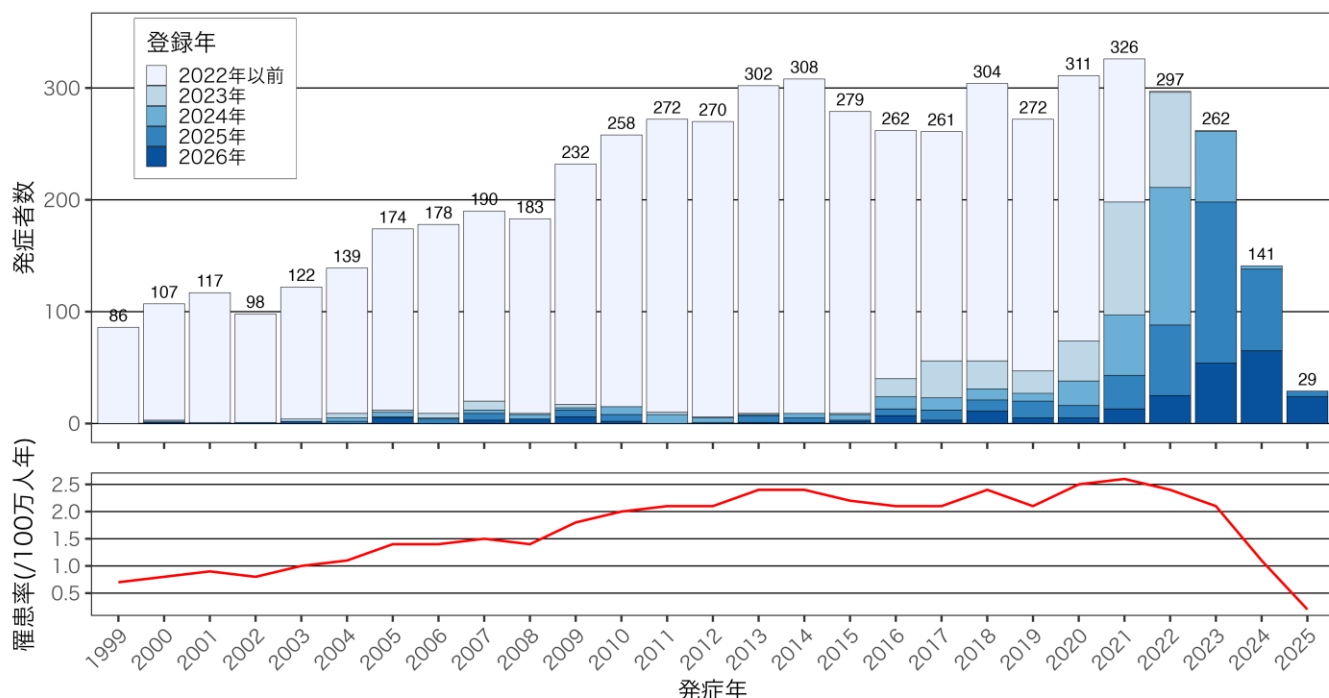


全国サーベイランスに基づくわが国のプリオン病の疫学像

研究分担者：自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門 阿江竜介

サーベイランス結果によるプリオン病の発症者数と罹患率の年次推移



解 説

1. 2026年2月までのプリオン病の発症者数と罹患率の年次推移を示す。
2. 1999年以降、発症者数は増加傾向である。これはサーベイランスの継続により、診断体制が充実してきたことを反映しているものと考えられる。
3. 2021年には発症者数・罹患率ともに過去最高を記録した。
4. 発症からサーベイランスへの登録までには数年を要するため、2021年以降も発症者数は増加している可能性がある。